

紀の川市行財政改革推進委員会会議概要

日 時：令和6年7月10日（水）10:00－12:10

会 場：紀の川市役所3階 庁議室

出席者：伊藤委員、恩賀委員、川端委員、中迫委員、中村委員、西川委員、宮城委員

欠 席：野村委員

事務局：企画部：栗本企画部長

企画経営課：東次長、今井班長、森本副主査、山名主事

人材マネジメント課：中川課長、大村班長

公共施設マネジメント課：福田課長、野中班長

財政課：速水課長、山中班長

デジタル推進室：畠口室長

1. 開会

2. 委嘱状の交付

市長代理の今城副市長から委員に委嘱状を交付

3. 副市長挨拶

4. 委員等紹介

事務局から委員及び職員を紹介

5. 会長及び副会長の選出

会長、副会長の選出について、事務局に一任の声をいただき、事務局案として、会長に伊藤委員、副会長に西川委員を提案⇒異議なしと賛同の声をいただき、会長に伊藤委員、副会長に西川委員を選出する。

6. 会長挨拶

7. 議長の選出

事務局から伊藤会長にお願いしたい旨提案し、会長が議長を務めることに決定する。

8. 議題

（１）市の財政状況について

【財政課速水課長から説明】

質疑なし	
------	--

（２）令和5年度行財政改革推進計画の進捗状況及びその結果に基づく令和6年度の重点推進項目について

行政経営部会【企画経営課今井班長から説明】

恩賀委員	地区によって問題点は違うが、どういう形でタウンミーティングを実施する予定か。
事務局	タウンミーティングに関しましてはまだ計画段階ですが、市長が直接、学校に出向き、

	未来を担う小学生との会話、保護者会を含め地域住民の方々と、それぞれの地域の課題をお伺いするという機会を検討しています。
恩賀委員	やり方によっては、陳情の場になってしまうので、そうならないように。
伊藤会長	今の提言を踏まえてより実効性の高いタウンミーティングを実施していただきたいと思います。
中村委員	事務事業評価を用いたデータの確認とはどのようなものか。
行政経営部会	事務事業という単位毎に指標を設定していますので、この指標を行政経営部会の方で収集して確認しているところです。
中村委員	指標の確認を行うことで、重要なデータの調査を行うことができたとはどういうことか。
行政経営部会	指標は、事務事業において違いがあります。その中でも、課題として認識しなければならないデータを、特に重要なものとして位置付けて収集しており、それを経年で比較し、市の状況を分析できるようにと考えています。
中村委員	データベース的なものはあるのか。
行政経営部会	データを収集した中でデータベースを作成しているところです。
中村委員	どれが重要かとかいう評価の基準はあるのか。
行政経営部会	特にルールや基準はありません。一旦すべてのデータを収集した中で、1つずつ精査している状況です。
伊藤会長	中村委員のご指摘も非常に重要なことだと思いますので、またそれを踏まえてデータの整備をし、色々な形での公開をお願いしたいと思います。

人事部会【人材マネジメント課中川課長から説明】

川端委員	ここ最近、公務員離れと言われており、国でも県でも公務員に応募する人が毎年非常に減っています。紀の川市の今の状況はどうなっていますか。 また、たくさんの方に紀の川市で働いてみたいと思ってもらえるような広報の仕方など何か工夫されていることはありますか。
人事部会	本市でもやはり応募者数が年々減っていました。 対策としては、テストセンター方式というのがあり、全国の360ヶ所、北海道から沖縄まで、どこでも受けられるようにし、昨年度の応募者数は、職種、年齢制限などによって異なりますが、若干増加しました。 福島県から大分県まで、受けていただいた状況です。試験を受けやすいように検討しています。 広報については、昨年度はLINEやSNSに加え、パブリックコネクトというサイトを利用し、どういう風に働いているか周知しています。 また、公務員とはどんな仕事をしているのかと難しく考えている方もいるので、ホームページへ職員のインタビューなどを掲載し、公務員の実態をあらかじめ周知したり、高校生を対象に庁舎案内もしています。子供が少なくなり、人材の取り合いになっていま

	す。市としても様々な施策は打っていますが、機械化や外注化というのを合わせて検討していかなければならないと考えています。
宮城委員	参考資料の人事部会の重点は、業務改善意識を向上させることで超過勤務を縮減させ、働きやすい環境整備を推進とあるが、今の対策の中で超過勤務はどういう状況か。
人事部会	昨年は特に 6 月 2 日の災害がありました。災害がある、ない、また選挙がある、ないで大きく残業が変わってきます。 特に昨年度はかなり災害規模が大きかったので、年度末まで関連の事務があり、大幅に増加しました。 業務改善し、効率的な事務をすることで少しでも残業が減っていけばと考えています。
中村委員	柔軟かつ機動的な組織機構のところで、人事評価を実施して仕事にやりがいを感じている職員の割合を上げていくとあるが、そのつながりが分からない。
人事部会	人事評価は、職員が目標設定をして管理職と面談をします。管理職が、その目標に対して、アドバイスをすることで、日頃不足になりがちなコミュニケーションの機会を設けています。評価が終われば、その結果を管理職からフィードバックします。管理職から目標を達成した際の声掛けがあると、やりがいにつながっていきます。管理職のマネジメント力が大きく作用すると人事部会では考えています。
中村委員	人事評価に満足している人が仕事にやりがいがあったという答えの割合が高いという根拠はあるのか。
人事部会	職員によっても考え方が違うと思いますが、人事評価制度が 1 つの要素であると考えています。
西川委員	やりやすいかどうかで、やりがいがあるかどうかを判断している職員もいるんじゃないですか。しんどいんだったらもういいや。しんどくないほうが楽やと、それとやりがいとちょっとごっちゃにしてね。それで果たして市役所なりの職員の質が上がってるかといったら、必ずしもそうではないっていえる部分があるんじゃないすかね。 能力あるけど、上役が邪魔になるからやりがいがないって考えている方もいらっしゃるんじゃないか。 それを突破する方法も同時に考えていかないとね、やりがいがあるか、ないかだけで判断していると停滞していくんじゃないかなと思う。
人事部会	能力のある人は、昇格していくのが基本。昇格試験は実施していませんので、人事評価等で決めています。 小規模自治体で昇格試験は、なかなか難しい。試験だけでそれを評価できるかというのも、問題があるので、その辺も含めて研究検討していきたい。
川端委員	男性職員の育児休暇の取得率が 4 割強とあったが、平均何日ぐらい取っているのか。
人事部会	数日から 2, 3 カ月です。
川端委員	1 年はないですか。
人事部会	1 年はないですが、2 人目が生まれてというのはあります。
川端委員	何日とれば育児休暇となりますか。1 日でも育児休暇となりますか。

人事部会	はい。1日の方もいました。
川端委員	それならもうちょっと取得率が上がってもいいと思いますが。
人事部会	そうですね。取ることによって、給料や手当が減ります。育児休業手当金、そういうのを計算して取られる方もいます。取れる状況では取っていただいたらと考えています。
中迫委員	職員の職階と職域によってやりがいは違うのか。
人事部会	分析はしていませんが、集積した感じでは、年齢が上がるにつれて、管理職になるにつれて、低い。
中迫委員	やりがいを感じてない部分に対するちょっときめ細やかな工夫が今後あればいいかなと思います。
伊藤会長	今の指摘で、きめ細かなというか、いろんな形でこの時代に合わせた新しい視点を取り入れていただきたいと思います。公務員の仕事の楽しさとか、面白さとかやりがいはなかなか見えづらいところがあります。高校生あたりから職業意識は芽生えてきますので、この役所のすばらしい仕事を若い人たちに伝えて、志願するような人材を増やしていただければと思います。
中村委員	私が参加した委員会では、試験のない都道府県や市町村のレベルは非常に低かった。理由は試験が30代やその前後にあると、試験に出そうなことを一生懸命勉強する、その差が大きいということが実際ありました。試験で評価するというよりも、職員の能力を上げるためには必要だと思うのです。やっぱり試験があるので、その時点でまた勉強する、なかったら勉強しない、評価というよりも、全体のレベルを上げるため必要だということは覚えておいて欲しい。
人事部会	検討させていただきたいと思います。

施設部会【公共施設マネジメント課福田課長から説明】

質疑なし	
------	--

財政部会【財政課速水課長から説明】

西川委員	受益者負担比率の目標値、これ、可能な数字ですか。 下水道の接続率も増えていますが、これできると思っているのですか。 これからはそんなに増えないと思う。高齢化したら、だんだん減ってくる。 他の計画もそうですが、すべて増えている。本当にできるのか。
財政部会	受益者負担比率が年々増えていく部分について、コロナ禍におきましては、公共施設の利用を制限するところもあり、近隣市町村も含めて、受益者負担の比率というものは大きく下がりました。コロナも一段落しまして、公共施設利用の部分については、以前以上に、現在増えています。目標値についても、近隣市町村の水準も踏まえて、設定してありますので、この程度は達成していきたいという設定です。 下水道事業の接続率の目標値の考え方は、今まさに下水道の整備を進めている状況でありまして、整備していく以上は、皆さんに使っていただく、接続していただくという

	ころが必要となってきます。高齢な家庭もたくさんありますので、なかなか接続が進んでいないという課題は、確かにありますが、整備していく中で、まずは新しい若い世帯がたくさんある地域を優先して、整備を進めるというような工夫をしながら、少しでも接続率を上げていく取組を担当課でも考えて進めていますので、さらなる接続率の向上というところを確保していきたいと考えております。
伊藤会長	西川委員ご指摘のようにできるのかというのは、逆に言えばこれは紀の川市だけでなく全国的にどこの自治体も抱えている大きな問題だと思います。実態に対し、目標実現のためにいろんな施策を施すことが、すなわち高齢化の問題や受給者負担の問題、そういったことの解決に繋がっていくと思いますので、その辺を織り込んだ形で施策を進めていただければと思います。
中村委員	ふるさと納税の寄附金を増やすとあるが、例えば泉佐野市は、企業を誘致しています。ふるさと納税用の商品を作ってくれる企業には土地や補助金を出して。紀の川市ではそのような考えはないのか。
財政部会	現状まだそういったところまでは進んでいません。
中村委員	農作物ばかりで、ふるさと納税と言っても、農業の後継者も不足してる中で、伸ばしにくい。企業誘致も考えるべきではないか。
財政部会	今後、十分そういったところも参考にしながら、担当課に伝えたいと思います。
宮城委員	滞納処分 922 件目標をクリアしているが回収率はどうか。
財政部会	市税の収納率については、16 ページの上から 2 つ目に、収納率 97.5%という実績となっております。
宮城委員	もともと全体債権があって、そのうち 922 件収納できたということか。
財政部会	滞納処分をしたもののうちの回収率、滞納処分をして、結果、幾らその回収できたかという率については、この数字を持ち合わせておりません。
宮城委員	財政基盤の強化ってということで、基金の分野で 4 億、3 億、1 億円を積み上げるとあるが、目標値が現状値の残高より下回っている。
財政部会	この目標値につきましては、5 年を計画期間とする財政計画に掲げている数字をそのまま、設定しており、実態とちょっとかけ離れている部分があります。財政調整基金は、目標値を上回っているというところですので、この部分については、新しい財政計画を昨年策定した際に、この 61 億円から、スタートして、新しく目標値を設定し直したというところがございます。
中村委員	今の話ですけどわざわざ 5 年計画があったのを見直しする必要はあるんですか。達成したら、しなくてもいいのではないですか。当初目標より上回っているのなら基金に積まずにもっと使ったらい。それが借り入れ減らしたらい。
財政部会	目標値の設定する際には、近隣市町村の基金の保有額も参考にして、また大きな災害などが生じた場合に、必要になる金額の水準も踏まえた上で、設定しております。紀の川市については、和歌山県内 9 市の中で、水準としては真ん中ぐらい中位でありますので、そういったところをもあり設定をし直しました。

中村委員	先ほど西川委員がおっしゃったみたいに財政で賄う部分が増えていますので、そういうところでオーバーした税金を使うなどの発想にはならないのか。
財政部会	ここ数年で、大きく収入が増えている部分は、ふるさと寄附金です。令和5年度で19億円の、寄附額を募っている状況。一般財源として有効に活用しております。 過去は、予算規模が、300億円前後で推移していましたが、ここ数年については、300億円を超える予算組みもしています。令和6年度の予算組みについては、330億ということで過去2番目に大きい予算規模となっております。財源についても、十分有効に活用して施策を講じているということです。
西川委員	財政調整基金について、貯まったらいいというわけではない。何かをするためのっていうことが前提であってしかるべき。 公共というのは非常に難しい。公共で直すのか、市として責任もって直すのか、非常にややこしいところである。市は、あらゆること、道にしろ何にしろ、全部地元負担に持ってくる。そういうとき財政調整基金の残高を使って直したらいいじゃないかって言いたい。
財政部会	必要以上に蓄えをするということはせずに、十分住民サービスの方にも還元していくというところで取り組んでいきたいと考えております。
伊藤会長	災害に備えることも非常に大事ですし、そういった意味でお金については備えることについて、できるだけ明確にしていいただければと思います。

DX部会【デジタル推進室畠口室長から説明】

中村委員	PRAに向かない業務を教えてください。
DX部会	数値化やエクセルの表にできないような業務は、RPA導入というのは難しいです。 表形式で数値化できているものは、その数値をまた別のところに、機械的に、システムが研究して行って、その入力を代行するようなイメージになってくるので、言葉とかじゃなく、数値化できる、表の形式にできるものは、RPA業務としては、やりやすい。
中村委員	当初はそういうものができるということで目標を立てていたのか。
DX部会	今回のメールの振り分けは、当初はできるという想定で動いていたが、届くメールによってその使っているフォントがいろいろあり、そのフォントが原因で、ロボットの作業が止まることが多々ありました。結局それを職員が手で作業するということになり、効率的ではなくなり今回は取りやめという状況になりました。
中村委員	メールは全部読めなかったのか。
DX部会	フォントによっては引っかかってしまう状況が発生した。

全体を通して

西川委員	色々お話しして、参考になるものもあったが、もっと詰めて話をしなければならない。将来はバラ色だという計画ばかりを立ててもそうはいかないと思います。その辺のところもきちんと詰めた話し合いを次回したいと思います。
------	---

伊藤会長	多分紀の川市の困難はどこの自治体も抱える困難であり、紀の川市でその困難を解決することが、他の自治体に対するある意味、大きな意味での希望にもなってくることと思います。 今日委員の皆様からいろいろご指摘いただいた点で特に厳しい面につきましては、それをまた答えを出すという形で、行政改革を進めていただければと思います。
------	--

伊藤会長より、ご意見を会長と事務局で取りまとめ、後日、郵送により委員各人に内容確認いただく旨を説明し、了承。その後、本会より市長に対して、提言書を提出する旨を確認。

9. その他

なし

議長解任

10. 閉会